

受講者のプロジェクトへの参加が単に個人レベルでの研修に終わらず、受講者が他の教員を研修するワークショップを開催するなど波及効果を見込んでいる点も重要である。受講者が各州のカリキュラム策定（米国では国ではなく、州毎に決められる）に関わっていく場合もあるとのことであった。また、気象という狭い範疇で考えるのだけではなく、算数・数学での気象データの利用など気象を媒介とした科学全般の啓蒙を意識すべきと感じた。

我が国における学校教育は大きな曲がり角に直面している：新指導要領での内容の精選、「総合的な学習の時間」の新設、理科離れや学力低下の懸念、少子化による教員養成大学のあり方を巡る論議・・・気象に関するあるいは気象を活用した教育のあり方について、本学会や大学、気象庁を始めとする各機関がどのような役割を果たせるのかを長期的な視点で考えることが必要ではないか。教育、特に次世代を担う市民の

育成を図ることは一朝一夕になせるものではない。一貫したビジョンが必要である。残念ながら、本学会（一般的に自然科学系学会）では教育やその研究を軽んじる傾向が続いているように思われる。しかし、学会が次世代の教育のあり方に何らかの寄与をするのは社会的使命であり、その成否が学会の将来に深く関わっていることは申すまでもない。

尚、教育プログラムの一端はアメリカ気象学会のホームページ(<http://www.ametsoc.org/>)中の'Educational Initiative'からご覧になることができる。

#### 謝辞

本講演会には気象教育研究連絡会として気象学会から補助を受けました。また、大会実行委員会には会場準備等でご尽力頂きましたことに深謝致します。なお、今回の招へいは2000年度日本学術振興会「外国人研究者招へいプログラム」(S00093)による。

## 支部だより

### 第8回中部支部公開気象講座のお知らせ

#### 「名古屋の夏は何故暑いかな？」

日本気象学会中部支部では一般の方々を対象に気象学の啓蒙を目的とした公開講演会を開催しています。今年は「名古屋の夏は何故暑いかな？」というテーマで、名古屋と岐阜の夏の暑さについて「気象学」と「街の構造」から迫ります。日頃、体感されている名古屋や岐阜の夏の暑さについて参加者とともに考えてみたいと思います。興味のある方は是非、会場にお越し下さい。

\*受付：12時30分より

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| I：開講の辞            | 13：00～13：05 |
| 白木正規（名古屋地方気象台長）   |             |
| II：総観気候からみた名古屋の暑さ | 13：05～13：55 |
| 大和田道雄（愛知教育大学）     |             |
| III：気象学的にみた岐阜の暑さ  | 14：00～14：50 |
| 大沼啓人（岐阜地方気象台）     |             |
| IV：名古屋の街づくりと暑さ    | 15：00～15：50 |
| 堀越啓美（名古屋工業大学）     |             |
| V：質問コーナー          | 16：00～16：30 |

日時：2001年8月20日（月）13時～16時30分  
（開場12時30分）

会場：愛知県勤労会館小ホール（210名）  
名古屋市昭和区鶴舞一丁目2番32号、  
電話：052-733-1141

JR東海中央線、鶴舞駅下車、南へ徒歩5分  
地下鉄鶴舞線鶴舞駅下車(5番出口)南へ徒歩5分  
市バス東郊通1丁目下車東へ徒歩3分

定員：先着210名

受講料：900円（要旨集代500円を含む）

申込方法：当日、直接会場にお越し下さい

主催：日本気象学会中部支部

後援：名古屋地方気象台、(財)日本気象協会

問い合わせ先：名古屋市中種区日和町2-18

名古屋地方気象台予報課内

日本気象学会中部支部公開気象講座事務局  
(電話：052-751-5125)